

18日 火曜

創世記



先祖はエサウである。

36:31 イスラエルの子らを王が治める以前、エドムの地で王として治めた者は次のとおりである。

36:32 ペオルの子ベラはエドムで治めた。彼の町の名はディンハバであった。

36:33 ベラが死ぬと、ボツラ出身のゼラフの子ヨバブが代わりに王となった。

36:34 ヨバブが死ぬと、テマン人の地から出たフシャムが代わりに王となった。

36:35 フシャムが死ぬと、モアブの野でミディアン人を打ち破った、ベダデの子ハダドが代わりに王となった。その町の名はアウィテであった。

36:36 ハダドが死ぬと、マスレカ出身のサムラが代わりに王となった。

36:37 サムラが死ぬと、レホボテ・ハ・ナハル出身のシャウルが代わりに王となった。

36:38 シャウルが死ぬと、アクボルの子バアル・ハナンが代わりに王となった。

36:39 アクボルの子バアル・ハナンが死ぬと、ハダルが代わりに王となった。彼の町の名はパウであった。妻の名はメヘタブエルで、メ・ザハブの娘マテレデの娘であった。

36:40 エサウから出た首長の名は、その氏族とその場所ごとにその名を挙げると次のとおり。首長ティムナ、首長アルワ、首長エテテ、

36:41 首長オホリバマ、首長エラ、首長ピノン、

36:42 首長ケナズ、首長テマン、首長ミブツアル、

36:43 首長マグディエル、首長イラム。これらはエドムの首長であり、所有地で住んでいた場所ごとに挙げたものである。エドム人の

エサウも神様から富の祝福はもらいました。ただしそれでヤコブと共存できなくなり、信仰の地から遠く離れて住んでしまったのです。エサウから多くの首長が出て、祝福をもらっているようではありますが、それも後に神に敵対し、惨めな結末となるのです。（アマレク人は紀元前8世紀に滅ぼされました）

本当の恵み、永遠の祝福を心に留め、御心を第一として人生を歩んでいきましょう。

聖書ではよく系図が記されていますが、それは記述が歴史的事実であること、そして神が現実の中に力強く働かれる方であること証しするためです。

31節以降は、後にイスラエルに王が生まれることを表しています。創世記はモーセが書いたのですが、モーセより後のことが書かれています。つまり必要を感じて後代に加えられたのです。聖書の記者は個人だけではなく、歴史を超えたものであるのです。その背後に主権を持って書かしたものは主なる神ご自身です。歴史を導かれた主は、私をも支配し導かれると確信し、その力強い臨在とともに進みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

